



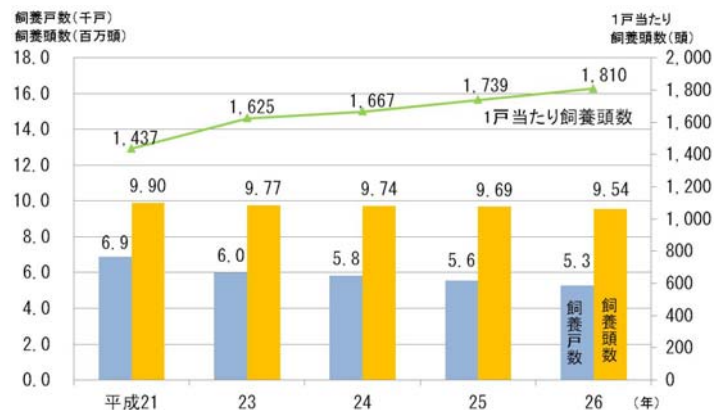
豚肉

◆飼養動向

26年2月現在の1戸当たり飼養頭数、4.1%増加

豚の飼養戸数は減少傾向となっており、26年は5270戸(前年比5.4%減)と、やや減少した。飼養頭数は、飼養戸数に比べ減少幅は小さいものの、21年以降減少傾向にあり、26年も953万7000頭(同1.5%減)と、わずかに減少した。この結果、1戸当たり飼養頭数は1810頭(同4.1%増)と、やや増加し、依然として小規模生産者を中心に廃業が進み、大規模化が進行する傾向が続いている(図1)。

図1 豚の飼養戸数および飼養頭数



資料:農林水産省「畜産統計」

注1:各年2月1日現在

2:22年は世界農林業センサスの調査年のためデータがない

◆生産

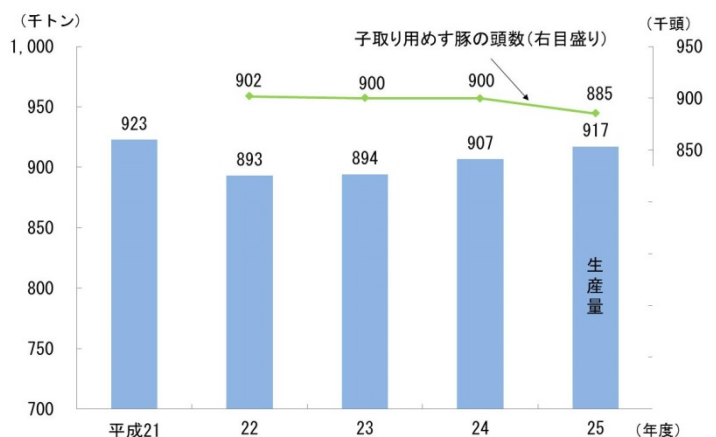
25年度の生産量、1.2%増加

23年度の豚肉生産量は、猛暑の影響はあったものの、前年度並みの89万4300トン(前年度比0.1%増)となった。

24年度は、猛暑および残暑の影響はあったものの、大規模農家による規模拡大に伴う増頭などにより、90万7100トン(同1.4%増)と、わずかに増加した。

25年度は、夏場は記録的猛暑となったものの、生産者の大規模化が継続したことなどにより、91万7300トン(同1.2%増)と、わずかに増加した(図2)。

図2 豚肉生産量と子取り用めす豚の頭数



資料:農林水産省「畜産統計」、「食肉流通統計」

注1:生産量は、部分肉ベース

2:子取り用めす豚の頭数は、各年度2月1日現在。

21年度(22年2月1日現在)は世界農林業センサスの調査年のためデータがない

25年度の豚のと畜頭数は、夏場は記録的猛暑となったものの、生産者の大規模化が継続したことなどにより、年度全体では1693万1300頭(同1.1%増)と、わずかに増加した。

また、平均枝肉重量は、23年度は、1頭当たり77.4キログラム、24年度は同77.3キログラム、25年度は同77.4キログラムとなり、近年、ほぼ安定的に推移している(図3)。

図3 豚のと畜頭数と平均枝肉重量



資料:農林水産省「食肉流通統計」
注:平均枝肉重量は全国平均

◆輸入

25年度の豚肉輸入量、2.0%減少

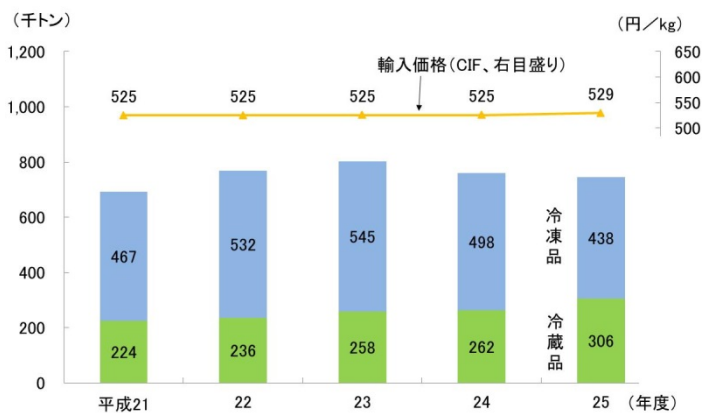
豚肉

23年度の豚肉の輸入量は80万2800トン(前年度比4.5%増)となり、2年連続で増加した。

24年度は、為替相場の円安傾向などから冷凍品が減少した結果、75万9700トン(同5.4%減)と、やや減少した。

25年度は、冷蔵品が増加したものの、24年度に続き冷凍品が減少した結果、合計で74万4200トン(同2.0%減)となり、2年連続で減少した(図4)。

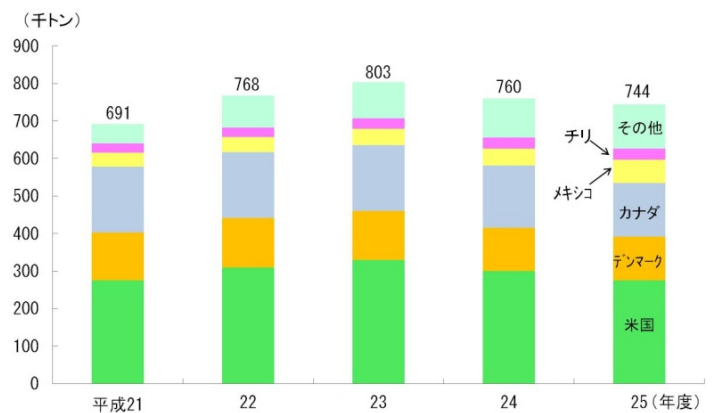
図4 豚肉の冷蔵品、冷凍品別輸入量および輸入価格



資料:財務省「貿易統計」
注:部分肉ベース

25年度の国別輸入量は、現地相場の上昇などから北米産が減少したものの、北米以外の主要国産は前年を上回った。内訳をみると、米国産は27万5100トン(同8.3%減)と2年連続で減少、カナダ産は14万2100トン(同14.1%減)と3年連続で減少した一方で、デンマーク産は11万7000トン(同1.7%増)と3年ぶりに増加、メキシコ産は6万2600トン(同35.4%増)と4年連続で増加、チリ産は3万200トン(同4.2%増)となった(図5)。

図5 豚肉の国別輸入量



資料:財務省「貿易統計」
注:部分肉ベース

豚肉調製品・ソーセージ

豚肉調製品やソーセージの輸入量は、23年度は豚肉調製品・ソーセージともに増加し、合計で21万8000トン(同6.7%増)と、かなりの程度増加した。

24年度は、冷凍豚肉の輸入量減少による代替需要から、調製品、ソーセージともに増加し、合計で23万1000トン(同6.1%増)と、かなりの程度増加した。

25年度は、ソーセージが減少したものの、前年から続く冷凍豚肉の輸入量減少に伴い、特にかた調製品が大幅に増加した結果、合計では24万4900トン(同6.0%増)と、3年連続の増加となった(図6)。

図6 豚肉調製品およびソーセージの輸入量



資料:財務省「貿易統計」

注:もも調製品:1602-41-090(関税率20%)

かた調製品:1602-42-090(関税率20%)

その他調製品:1602-49-290(関税率20%)

ソーセージ:1601-00-000(関税率10%)

◆消費

25年度の推定出回り量は0.1%減少、家計消費は5.0%増加

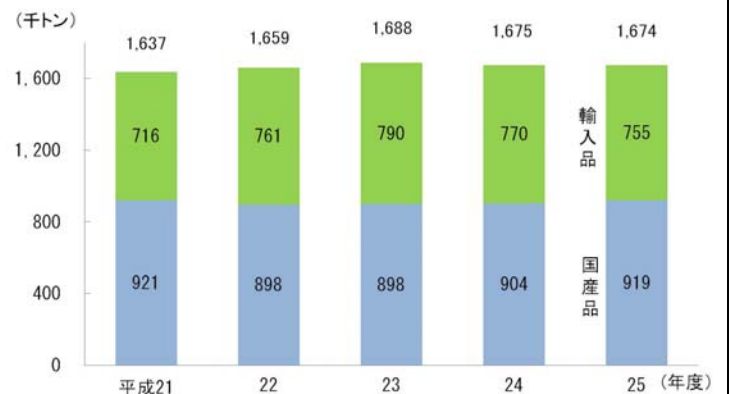
推定出回り量

豚肉の推定出回り量は、23年度は、生産量は前年度並みであったが、輸入量の増加により、2年連続で増加した。

24年度は、国産品は90万4400トン(前年度比0.7%増)と、わずかに増加した一方、輸入品は77万200トン(同2.5%減)と、わずかに減少し、全体でも、167万4600トン(同0.8%減)と、わずかに減少した。

25年度も前年と同様の傾向となり、国産品は91万8600トン(同1.6%増)と、わずかに増加したが、輸入品が75万5000トン(同2.0%減)と、わずかに減少し、全体では167万3500トン(同0.1%減)と、前年度並みとなった(図7)。

図7 豚肉の推定出回り量



資料:農林水産省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」より
農畜産業振興機構で推計

注:部分肉ベース

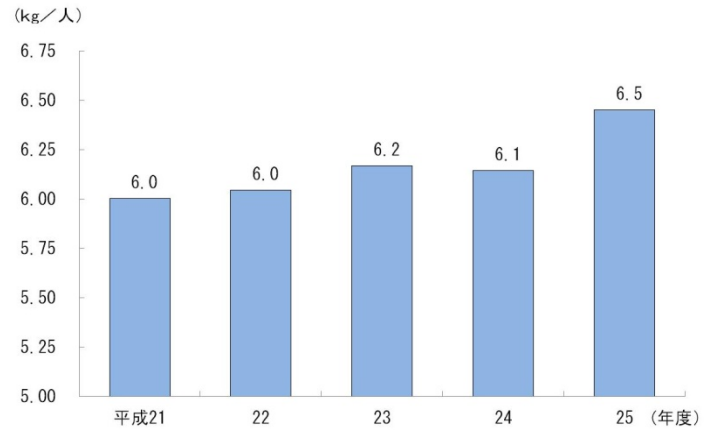
家計消費

豚肉の家計消費量は、23年度は、放射性セシウム検出に伴う風評被害により消費が減少した牛肉からの代替需要などから、年間1人当たり6.2キログラム(同2.0%増)と、わずかに増加した。

24年度は、前年度には及ばなかったものの、同6.1キログラム(同0.4%減)と、高い水準が継続した。

25年度は、価格が上昇した牛肉からの需要シフトに伴い、前年度をやや上回る、同6.5キログラム(同5.0%増)となった(図8)。

図8 豚肉の家計消費量(年間1人当たり)



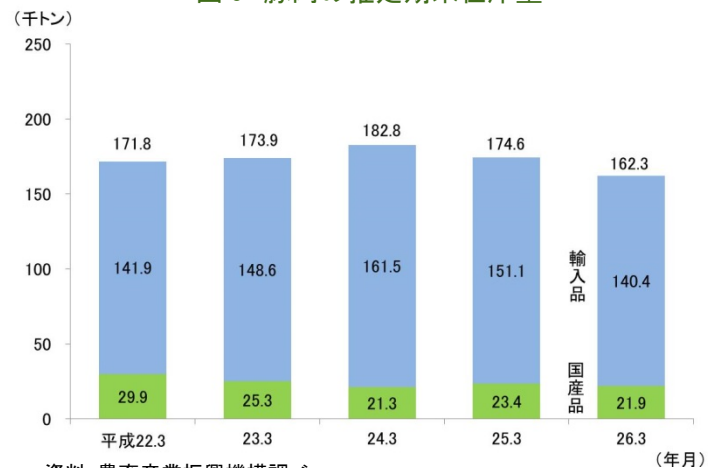
資料:総務省「家計調査報告」

◆在庫

25年度の推定期末在庫量、4.5%減少

豚肉の推定期末在庫量は、23年度は、輸入量の増加から積み増しが進み、18万2800トン(同5.1%増)と、やや増加した。24年度は、国産品が生産量の増加により積み増される一方、輸入品は、輸入量の減少に伴い取り崩しが進み、17万4600トン(同4.5%減)と、やや減少した。25年度は、国産品は前年度を下回って推移し、輸入品も冷凍品輸入量の減少に伴い、年末まで取り崩しが進み、年明けには積み増したものの、16万2300トン(同7.0%減)と、かなりの程度減少した(図9)。

図9 豚肉の推定期末在庫量



資料:農畜産業振興機構調べ

注:部分肉ベース

◆枝肉卸売価格

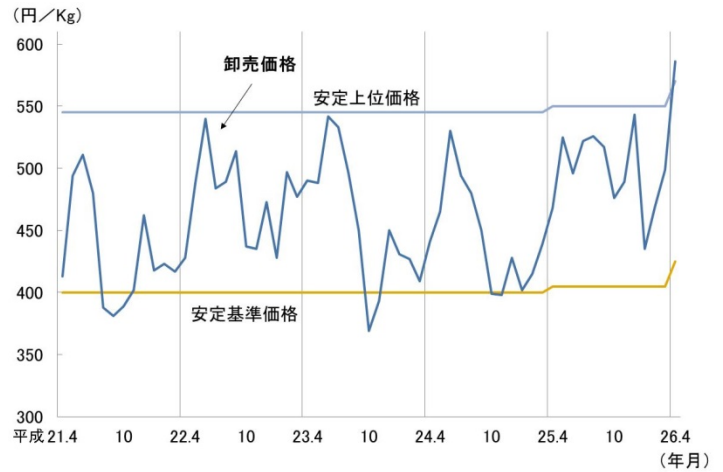
25年度の枝肉卸売価格、51円高の1キログラム当たり497円

豚枝肉の卸売価格(東京・省令規格)は、23年度前半は、22年夏場の猛暑による受胎率の低下に伴う出荷頭数減少、牛肉からの代替需要もあり、前年を上回って推移した。しかし後半になると、出荷頭数、輸入量の増加から、前年を下回った。

24年度は、輸入量の減少に伴う代替需要があったものの、出荷頭数の増加などにより、前年度をわずかに下回った。

25年度は、生産量は増加したものの輸入量が減少した結果、供給量は減少となったが、家計消費などにおける需要の高まりから、1キログラム当たり497円(前年度比11.4%高)と、前年度をかなり大きく上回った(図10)。

図10 豚枝肉の卸売価格(東京・省令)



資料:農林水産省「食肉流通統計」

注1:消費税を含む

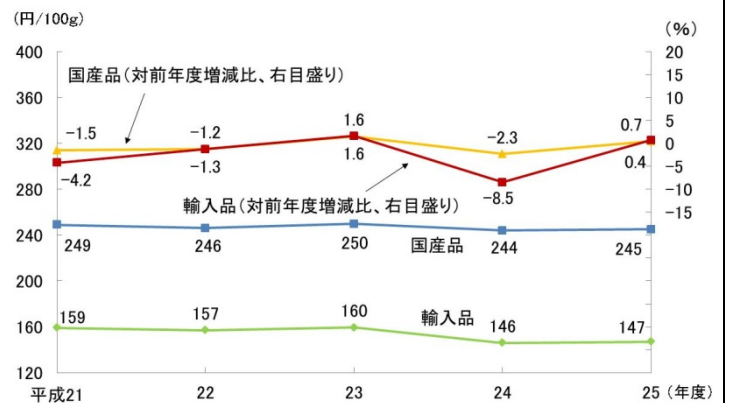
2:省令は、極上と上の加重平均

◆小売価格

25年度の小売価格、国産品、輸入品ともに値上がり

24年度の豚肉の小売価格(ロース)は、生産量が増加し枝肉卸売価格が前年を下回った国産品は100グラム当たり244円(前年度比2.3%安)、冷蔵品が増加傾向で推移している輸入品は同146円(同8.5%安)となり、いずれも前年を下回った。25年度は、国産品は、生産量は増加したものの、牛肉の相場高による代替需要などから同245円(同0.4%高)と、わずかに上昇した。また、輸入品も、冷蔵品輸入量は増加したものの、輸出国の現地相場上昇などにより、同147円(同0.7%高)と、わずかに上昇した(図11)。

図11 豚肉の小売価格(ロース)



資料:農畜産業振興機構調べ

注:消費税を含む